

日税メールステーション特別号

～海外ビジネス情報～

あるビジネスマンの「アジア出張記。」

(当時、工事中で残念ながら水を吐いていなかったマールライオン)

アジアのハブ、シンガポール

第3回目の今回は、シンガポール編です。

すでに多くの企業がアジアパシフィックのヘッドクォーターを置いているシンガポール。

Global Knowledge も、アジア地域(Global Knowledge Singapore、同 Malaysia、同 India、同 Indonesia)を束ねる Global Knowledge Asia は Singapore に所在します。今回の統合後、最初に足を運んだのがシンガポールです。私の、アジアスタッフ初対面の機会です。今回はその時のことを述べていきます。

■シンガポールの第一印象と現地英語

この時が初のシンガポール渡航で、空港を降り立って街を眺めた時の第一印象は

「整然としていて成熟した街。新興国と比して無味無臭、まるで日本にいるよう」というものでした。

カンボジアやタイなどを見ずにいきなりシンガポールに来たならば、アジアの勢いを実感はできなかったかもしれません。(※シンガポールに勢いが感じられないということではありません。新興国の勢いがそれほど強いということです)

ホテルまでのタクシーに乗って最初に衝撃を受けました。英語が全然聞き取れない...かなり癖の強い英語で、しばらく聞いて慣れるまで、少し時間がかかりました。運転手いわく

「シンガポールでは学校教育で英語を習うから皆英語を使える」とのこと。

日本でも学校で英語を習いますが、「使えるよ」とは言えないのが現実で、この差は大きいです。陸続きで、中華系、マレー系、インド系など、複数の民族が流入しうるこの地において、公用語は複数



ありますが、ビジネスでは一般に英語が使われ、訛りがあろうが、学生時に習った英語で事が進みます。綺麗な発音でなくても、使って意思疎通ができればまずはよいのです。

シンガポールオフィスでのスタッフとの打ち合わせにおいても、各自それぞれ癖や訛りがあり、正直聞き取りづらいのですが、皆何の滞りもなく会話と業務を進めています。大げさに書くまでもなく当たり前のことなのですが、その場において目の当たりにすることで、「これはまずい」ということを痛感しました。

社内の公用語を英語にするという企業があらわれて話題になりましたが、全ての業務時間とは言わなくても、日常的に英語を使う環境があるというのはやはり重要とあらためて思います。

■シンガポールオフィスにて

この時は、アジア各国(Singapore, Malaysia, India, Indonesia)のキーマネージャにシンガポールに来て会議に参加してもらいました。経営統合の目的説明とQ&A、Japan のこと Singapore のことをお互いに知り合うこと、特に経営者が変わる事への不安を和らげ取り除くことに主眼を置いたものです。

第一回のコラムでお伝えした通り、買収や吸収といった上下関係を感じる言葉は用いず統合という表現に一貫したり、統合による急激な変化は起こさないことやJapan が一緒になることのメリットについて、順を踏んで丁寧に説明しました。幸いしっかりと伝わったようで、懸念となるような反応は一切ありませんでした。

後に、多くの国で活躍されている経営者の方にうかがった話では、文化の異なる人とのコミュニケーションにおいては、

- ・ロジカルに説明する
- ・断片的な情報でなく全体像を伝え自分にどんな影響(力)や責任があるかを実感してもらうことが重要であるそうです。

確かにこの時の我々は、背景、目的、ビジョン、メリット、個々人への期待を伝えました。これが良かったのでしょう。

質問としてあがったのが、

「経営者が変わったことによる指揮系統はどうなるのか」

「もうじき事務所の契約が満期になるので延長か移転かを考えているがどうしたらよいか」
などなど。

初対面の新社長に聞くべきことではない細かな業務レベルのものも含まれましたが、アジアスタッフの視点に触れた最初でした。

正直な第一印象は、

- ・自分の得意なこと興味のあることに対する熱意と勢いが非常に強い
- ・色々あるだろうがこの人達とは一緒にやっつけようだ

でした。

マネージャ陣は皆 30 代(一部 20 代)で、所帯は小さいとはいえ、若いキーマン達を軸にして国をまたいで切り盛りしています。こちらが見習いたいものをたくさん持っており、同時に Japan の良いところを伝えていきたいというところも多分にあります。我々のような規模の企業(Japan が 90 人弱、アジアの各国が各 10 人強くらい)では、縦列のこだわりに意味はなく、各自のアイディアを実現化していくための決断・スピード・完遂力が重要です。その点で、協同していけると思える同士を得たことは幸運であり心強いです。

■ ドリアン初体験！

シンガポールオフィスのスタッフと夕食を一緒にした後のことです。

心優しきシンガポールのマネージャ 2 人が、ドリアンを食べに連れて行ってくれると張り切っています。同行した I 取締役は何よりのドリアン嫌いで逃げ出しそうな雰囲気でしたが、せっかくということで連れて行ってもらいました。

シンガポールの繁華街のある地域に着くと、そこにはフルーツショップが並んでいて、その場で食べることができるようテーブルとイスがいくつも置かれています。現地の人も、臭いが強すぎるので自宅では食べないのでしょう。



(果物の王様、ドリアン！)

彼らが教えてくれたことには、ドリアンにも甘みの強いものから苦みがあるものまで色々あるそうです。私は無難な甘いものをお願いしました。

結構神経質な私は、例えば日本のレストランなどで、床やテーブルが油でギトギトになっていると身震いしてしまうことがあります。しかし、シンガポールのフルーツショップでは、蟻のたかっているドラゴンフルーツに平気で手を伸ばし、あまりの臭いに顔をしかめている I 取締役をよそに、初ドリアンを「Not Bad!」とか言いながら 2 房(?) 平らげました。そう、意外にイケたのです！

これには現地のマネージャも喜んでくれて、だいぶ株が上がった(?) ようでした。

(I 取締役、私はこれを狙ったのですよ！)

ドリアンを食べると手にも口にも、ものすごい臭いが付きます。

この臭いを落とす方法を教わりました。ドリアンのトゲトゲのある皮の部分に水を垂らし、皮をつたわってきた水で手を洗うのです。不思議なことに、これで手に付いた臭いが落ちます。毒をもって毒を制する、ということでしょうか。これを英語で言ってみたかったのですが断念しました...

では、その水でうがいをしたら口の臭いが取れるのか、それは試しませんでした。

その代わりに、ホテルに戻る途中コンビニに寄り、新しい歯ブラシ(ドリアン専用!)と、マウスウォッシュと牛乳を買い込み、寝る前に 3 回歯を磨きました。

I 取締役は「そんなことをするなら食うな」とのたまいますが、何せ現地スタッフとコミュニケーションを取ることが第一ですから。なお、我々を案内してくれた現地マネージャの家族(というより奥様)はドリアンの臭いが大嫌いらしく、外で食べてくると家に入れてくれないことがあるそうです。

この日はどうなったのか、私は知りません...

次回はマレーシア編の予定です。よろしければまたお付き合いください。

【執筆者】

柳 恵太 (やなぎ けいた)

グローバルナレッジネットワーク株式会社

サービス戦略本部 本部長

ソフトウェアベンダー、メーカーにて主に移動体通信システム開発のエンジニアおよびプロジェクトマネージャを経て、2005 年にグローバル ナレッジ ネットワークに入社。新サービス立ち上げや技術者育成カリキュラムの企画・開発・実施、大型プロジェクトのマネジメント等の業務を経て、2011 年 9 月から現職。

現在は、サービス企画、マーケティング、海外展開等を推進する部門を統括。



【グローバルナレッジについて】



Global Knowledge.

グローバルナレッジネットワーク株式会社は、世界約 30 か国に展開する IT とビジネススキルのトレーニングプロバイダーです。国内外で活躍するビジネスパーソンに向けて、ヒューマン・スキルやビジネススキル、オリジナル IT トレーニングや IT ベンダーの認定トレーニングを提供しています。

▽あるビジネスマンの「アジア出張記。」はこちらのサイトでもご覧になれます

<http://blog.globalknowledge.co.jp/asia/>